

子供と大人がともに育ち合う 社会教育の推進

地域の
特色ある
活動

～社会教育と学校教育の
連携を通じて～

神奈川県茅ヶ崎市教育委員会

1 茅ヶ崎市の紹介

茅ヶ崎市は、都心から50kmあまり西に位置し、神奈川県の中南部にあります。南は海岸線約6kmに及ぶ相模湾に面し、北部の丘陵のほかは、平坦な地形が広がっています。四季を通じて気候が温暖で、明治期から湘南の別荘地、保養地として知られていました。

東京、横浜方面への交通の利便性にも恵まれた環境を背景に都市化が進み、近年はライフスタイルの変化などにより、湘南地域への関心が高まる中で、本市への転居も増えています。

2 市内で進む教育連携

市内には、公・私立の小学校・中学校・高等学校をはじめとして、幼児の保育・教育施設、私立大学などがあり、それぞれが校種を超えて連携し合い、教育活動の幅を広げることに取り組んでいます。

また、教育委員会では、令和7年度までにコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の全校設置を推進しており、市立小・中学校において、これまで以上に地域とのかかわりを大切にし、学校と地域が一体となり子供の成長を支えていく「地域とともにある学校」づくりを目指しています。

更に、近年ニーズが高まっている放課後子ども教室推進事業として、児童クラブのほか、「小学校ふれあいプラザ事業」を小学校区ごとに開設し、学校・保護者・地域で組織された運営委員会により実施しています。

社会教育施設としては、博物館、図書館、公民館があり、学校教育と社会教育の連携に

も取り組んでいます。

3 産官学の連携で推進する文化財保護

安政2（1855）年に建築された古民家である旧和田家住宅は市の重要文化財に指定され、現在保存・公開しています。文化財の次世代への継承を目的に、平成29年から耐震改修事業に取り組む中で、地域の小学校5年生が文化財について学び、近隣の大学の社会学や建築工学の教員、学生、広告代理店のデザイナーとともに産官学で連携し、保存活動の体験、シンボルマーク、解説パンフレットや広報ポスターの作成など文化財の保存と公開普及活動に取り組みました。



シンボルマークを考える小学5年生



古民家の犬走を造る小学5年生

4 国指定史跡の学校教育への活用

市内には国史跡である「下寺尾官衙遺跡群」「下寺尾西方遺跡」があり、この地域の当時の地勢、暮らし、環境などを現代の私たちに伝えてくれています。

平成27年に指定された「下寺尾官衙遺跡群」は、7世紀から9世紀前半にかけての古代律令制下の相模国高座郡の高座郡家（政庁、正倉等）と、「七堂伽藍跡」と呼ばれる古代寺院跡から構成されています。官衙遺跡の全体像が把握できるとともに、その成立から廃絶に至るまでの過程が確認できる稀有な遺跡であり、地方官衙の構造や立地を知るうえで重要な遺跡として評価されています。

平成31年に指定された「下寺尾西方遺跡」は、弥生時代中期の代表的な集落跡である深い濠を巡らせた環濠集落跡で、南関東最大級の規模となります。出土遺物には土器のほか石器と鉄器があり、使われていた道具の移行の在り方を示していることが評価されています。

この二つの史跡は、同地点に所在しており、同じ場所に異なる時代の国史跡が重なって存在する、全国的にも珍しい事例です。地域の遺産であるこれらの史跡を後世の人々に継承するため、発掘調査を行っている市教育委員会の職員が、地域の複数の小学校で総合的な学習の時間の授業を行っています。また、地域では例年遺跡に関するイベントを開催しており、この中で小学生が学習内容の発表を行い、多くの方に遺跡の魅力を伝えています。



市教育委員会職員による史跡に関する授業

5 広がる博物館活動

これまで文化資料館を拠点として、市民と

協力して本市の自然や歴史・文化について調査研究するとともに、9万点を超える資料を収集保管し、展示やワークショップなどの教育活動を展開してきました。また、市全体を壁や屋根のない博物館に見立て、市民と協働して様々な史跡や文化財の調査研究と保存活動を推進してきた「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」も発展しています。

そして、老朽化した文化資料館の機能を拡充・移転して、新たに「茅ヶ崎市博物館」が令和4年7月1日に開館しました。

新しい博物館は、従来の教育活動を展開するに留まらず、市民とともに都市化の進展、少子高齢化、生活様式や価値の変化・多様化、自然環境の変化といった地域社会の課題解決の一翼を担うことを目指しています。

地域の歴史・文化・自然に根差した常設展示や企画展に加え、子育て世代を対象としたワークショップや図書館・公民館と連携したイベントも数多く開催しています。市内や近隣市町の学校などから来館した際には、学芸員が展示解説を行うなど、ニーズに合わせた多角的な活動により好評をいただいています。

6 学びの広がりを求めて

国のデジタル田園都市国家構想への取り組みとして、博物館が中心となり、美術館・図書館・市史編さん担当が所蔵している本市の自然や歴史・文化・芸術に関する資料を保管・公開するデジタルアーカイブを構築し、ジャパンサーチにも接続して公開するなど、活用しやすくなるよう努めています。

また、学校の学習用のタブレット端末を使って、授業でも簡単にアクセスできるようポータルサイトやアプリケーションも整備し、活用が進んでいます。

このような取り組みを通して、可能性と魅力が溢れる学びの拠点として親しんでいただけるよう、時代とともに進化していきたいと考えています。

教育長

竹内 清

